

取扱説明書(機種別)

測温抵抗体入力モジュール

WRBA-RTF2、RTN2

このたびは、測温抵抗体入力モジュールをお買い上げいただき誠にありがとうございます。ご希望通りの仕様であるかラベルの記載内容をお確かめください。本品は、厳重な品質管理基準に基づいて製造、検査されております。万一、輸送中の破損などで不都合がありましたら、弊社またはお買い上げの販売店までご連絡ください。

この取扱説明書では機種ごとの使用方法を説明しています。この他に下記取扱説明書と合わせてご利用ください。

- ・リアルリンク取扱説明書
- ・SNVTs取扱説明書(WRBA-RT)

ご使用にあたって

ご使用前にリアルリンク取扱説明書の1ページにある「安全にお使いいただくために」を必ずお読み下さい。

概 要

本器は測温抵抗体を入力とするプラグインタイプのユニットです。機能設定は、LonMaker for Windowsで行います。通信は1対のツイストペアケーブルで行います。

仕 様

WRBA-RT □ 2 F - □ A □ 01

シ リ ー ズ	タ イ プ	抵 抗 体 種 別	入 力 点 数	ト ラン シ ー バ	入 力 コ ー ド	電 源	検 査 成 績 書 番	内 容
WRBA								BAモジュール
	RT							測温抵抗体入力モジュール
		F						Pt 100Ω at 0℃
		N						Ni 508.4Ω at 0℃
			2					2量入力
				F				FTT-10A
					10			0～50℃
					11			0～100℃
					13			0～200℃
					14			-20～80℃
						A		AC85～242V DC85～132V
						0		なし
						1		付き
							01	SNVT対応

入力信号 測温抵抗体(Pt100ΩまたはNi508.4Ω)
 許容差 ±0.1%fs(0～50℃は±0.2%fs)
 周囲温度の影響 ±0.01%fs/℃(0～50℃は±0.02%fs/℃)
 サンプリング 約50msec/1量あたり

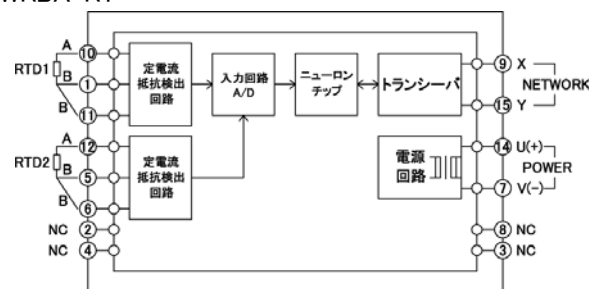
モジュールの設定

モジュールの登録、接続、通信及び各種設定は、米国エシェロン社製のLonMaker for Windowsにより行います。モジュールからの設定は出来ません。

SNVT及びパラメータの詳細は、SNVTs取扱説明書をご覧ください。

回路ブロック図

WRBA-RT



端子配列

WRBA-RT

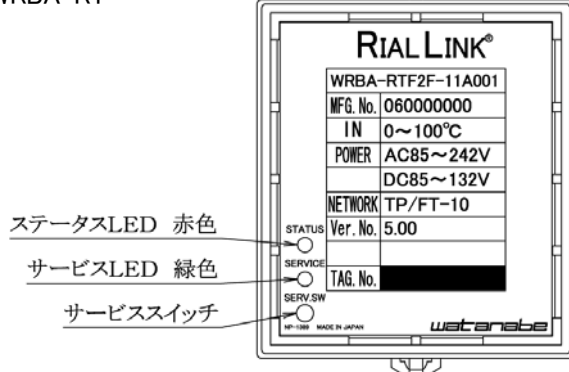
No.	記号	内容
10	A	入力信号 1A
1	B	入力信号 1B
11	B	入力信号 1B
12	A	入力信号 2A
5	B	入力信号 2B
6	B	入力信号 2B
2	NC	空端子
3	NC	空端子
4	NC	空端子
8	NC	空端子
14	U(+)	電源
7	V(-)	電源
9	X	通信
15	Y	通信

注意 正しい精度で計測を行う為に以下の対応が必要です

- ・1量(片側)のみご使用の場合、接続しない側のセンサ入力端子のB-B間は必ず短絡してください。
- ・電源投入時は必ずセンサーが接続されている状態(センサ入力端子のB-B間を短絡した状態)で行ってください。B-B間にセンサが接続されておらずオープンになっている状態で電源投入を行った場合には、B-B間短絡後に通信経路でのモジュールのリセットもしくは、電源の再投入を必ず行ってください。
- ・B-B間にセンサが接続されている状態(または短絡)でも括線状態でモジュールをソケットに挿した場合には、B-B間短絡確認後に、通信経路でのモジュールのリセットもしくは、電源の再投入を必ず行ってください。

スイッチ・LED

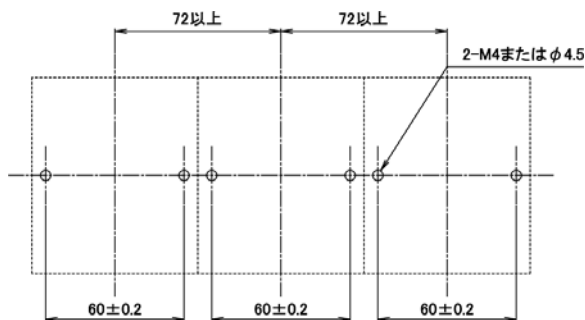
WRBA-RT



- ① ステータスLED
モジュールの状態とトラブルの内容が確認できます。
- ② サービスLED
サービススイッチを押した時と、内部のEEPROMのデータが破壊された時に点灯します。また、モジュールの内部設定がされていないと、このLEDが点滅をします。
- ③ サービススイッチ
LonMaker for Windowsを使用し、モジュールを認識させるときに使用します。

取付寸法図

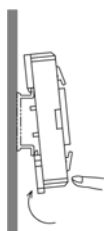
WRBA-RT



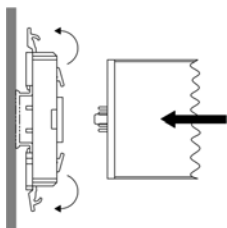
D I N レールへの着脱

1. 取付け

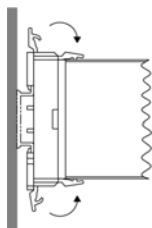
- ①黄色のスライダーが下側になるように取付けます。裏面のフックをレールにかけ、矢印の方向にカチッと音がするまで押してください。



- ②黄色のフックを外側に広げます。本体を差す前に必ず電源を切ってください。本体の上下を確かめてまっすぐ差し込みます。上下を間違えると本体プラグ部を破損することがあります。

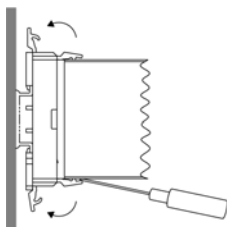


- ③フックで本体を必ず固定してください。フックで固定しないと振動や衝撃で本体が脱落したり、接触不良を起こし事故の原因になります。

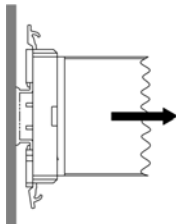


2. 取りはずし

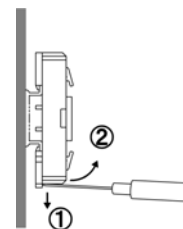
- ①両側の黄色のフックをドライバーなどを使ってはずします。



- ②本体をはずす前に必ず電源を切ってください。本体をまっすぐ手前に引くとはずれます。



- ③黄色いスライダーの溝にドライバーを差し込んで①の矢印の方向に下げながらソケットを②の矢印の方向にひくとはずれます。



その他の注意事項

1. 設置

- ・使用温度が-5～55℃の範囲を越えない場所に設置してください。
- ・使用周囲湿度が90%以下で、結露しない場所に設置してください。
- ・塵埃、金属粉などの多い場所に設置する場合、放熱対策を施した防塵設計の筐体に収納してください。
- ・振動、衝撃は故障の原因になります。極力避けてください。

2. 配線

- ・電源ライン、通信ラインは、ノイズの発生源、リレーの駆動ラインの近くに配線しないでください。
- ・使用しない入力端子のB-B端子間は短絡してください。
- ・センサから本体への3本の線(A, B, B)の配線を行う際は、同じ線(線種、線径、長さ)を使用して行って下さい。線種が違ったり、長さが違う場合は、正常に計測が行えない可能性があります。

3. 電源投入時

- ・センサーが接続されている状態(もしくはセンサ入力端子のB-B間を短絡した状態)で電源投入を行ってください。
B-B間にセンサが接続されておらずオープンになっている状態で電源投入を行った場合には、B-B間短絡後に通信経由でのモジュールのリセットもしくは、電源の再投入を必ず行ってください。この作業を行わないと正常に計測が行えない可能性があります。

4. 括線挿抜時

- ・ソケットに電源が供給されている状態でモジュールをソケットに装着した場合には、B-B間にセンサが接続されている状態(または短絡)でも、モジュール装着後に、再度B-B間短絡確認を行ってから、通信経由でのモジュールのリセットもしくは、電源の再投入を必ず行ってください。リセットもしくは電源再投入を行わないと正常に計測が行えない可能性があります。

本器は電源投入と同時に使用可能ですが、すべての性能を満足するには30分間の通電が必要です。

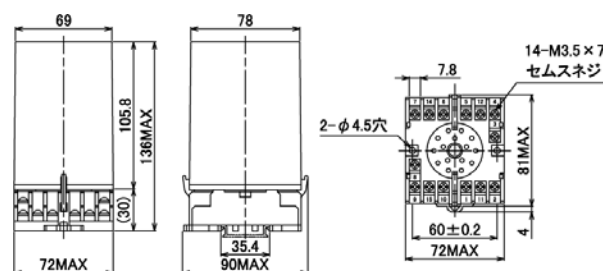
保証

本製品の保証期間は納入後1年間です。この期間内にカタログと本取扱説明書および別刷りのリアルリンク取扱説明書に定めてある条件で使用中に故障が生じた場合、弊社またはお買い上げいただいた販売店までご連絡ください。無償修理または新品交換させていただきます。また、故障修理をご依頼される場合、必ず不具合の内容を具体的にお知らせください。

なお製品を分解、改造されたり、カタログと本取扱説明書および別刷りのリアルリンク取扱説明書に定めた条件以外でご使用された場合の保証はご容赦いただきます。

外形図

WRBA-RT



付属品

- ベースソケット 14PFA 1個